

後母人面ありて、いひのがとよもの人良申ふは、あつるをくひなりと
 いふ事。王祥天下におちりて、まじりにぞくと、後母といふものの世に
 おくさんありても、みづわくじものあるが、王祥かやうな事も母より
 孝行あらうもの天下おちりと、あて他もろく、今に至て河水と
 と、母も母冬のさむきお生うと、経ぐきれが、王祥其より、葉を
 肩とり、川の川へゆきて、魚泳りにあきれども、氷どらけて、又お奥に
 ゆる事なく、せんこあく、裸をおりて、氷の上お姉まれ、奥三
 りぢりぢりて、其事、氷わくし、一斤氷摸お姉ひと、王祥氷の上お姉
 こわれと、わりくとほの世まである、氷換ふ、氷ハこやり、換ふこと
 し、又王祥がすぐこの氷の上お姉、さあ、いさみて、お水う
 こら、やうありと、これ、一徹お孝行の心天理ふる、其氷水のとお多々
 事、未代の人、れ子と、ものみ、甘ーめ、王祥が、よく孝行、代つてせ
 ば、妙々物、ぎわりと、たより、あ、う、ふ、又、不孝あらうのお鬼、休心
 ふ入りり、わく、げとも、め、代から、ぼ、子孫、あ、く、絶え、天道、あ、く、ふ、あ、く

蔡頌

[illegible]

牛 ギウ	赤 シヤク	啼 オウテ	黒 クロ
米 ベイ	眉 メイ	飢 ウエ	堪 カン
贈 フダテ	知 シラテ	泪 ナタ	奉 ホウダ
君 キミ	孝 カウ	滿 ミツ	親 シン
歸 カヘ	願 ガン	衣 ユエ	圍 イニ



願 子カクハ 到
將 モツテ 縣
身 ミラ オズニ 未
代 カクニ 旬
死 ニニ 月

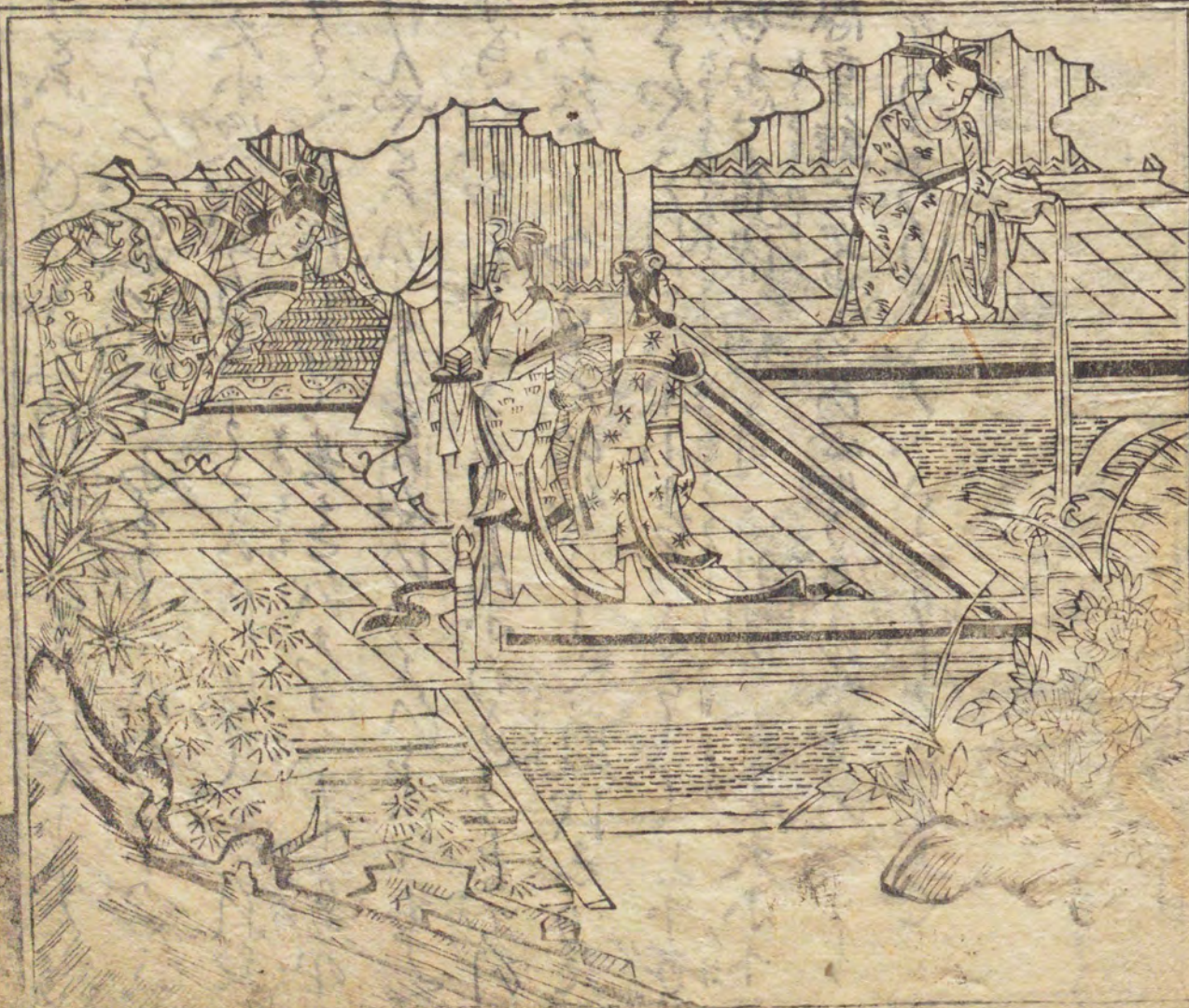
北	ホク	椿	チン
！		！	
望	サクニ	庭	テイ
啓	モリス	邁	アフ
ニ		ニ	
憂	アイ	疾	ハマイ
！		！	
心	シン	涼	フカシ
ニ	ヲ	ニ	ニ

縣よりいふまで旬日さうにたふ。堅果せんやうにうつりていまで目敷を
 うぬ減りて椿庭疾深ふわふふらんてふふ又びりてにりひの
 かなまなりきとふひがつきとてふふ又びりて死ふやうん
 系祿ぐくハ我身減りてふりふふとて又びりてさすけくきふとて
 存行ぬき心づくひなり。小塑ふ憂心減りてふふとてふふとてふふのふ
 トの事て憂心減りてふふとて又の事すひびらなりむうまこの心
 りうりあげてふふいかりなりとてふふとてふふふふふて
 又びりてふふのわんや子回若模天於藏又とてふふ人の清心ふおけ

家範の人々詩八東坡の才
 子なり家範を以て
 人なりてなり

貴	平	汲	姆
一	一	一	一
殲	生	泉	妾
一	一	一	一
聞	考	涓	豈
一	一	一	一
天	事	溺	無
一	一	一	一
下	親	烝	人

きんてん
李歌天下小きる石山
えん
吾宮織たきれ八雲名
えん
さんふかれきと云之



衆生者ありて親おつめりてひくを行ありて、
 人ありてあるくやめりて、泉と汲てあきき
 母の座めれ時、くくくくくくくくくくくくく
 入つて、くくくくくくくくくくくくくくくく
 の存けや、婢女豈あけんや、くくくくくくく
 母つて、くくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 人なり、くくくくくくくくくくくくくくくく
 民人、くくくくくくくくくくくくくくくく
 賤、くくくくくくくくくくくくくくくく
 佛、くくくくくくくくくくくくくくくく

王褒

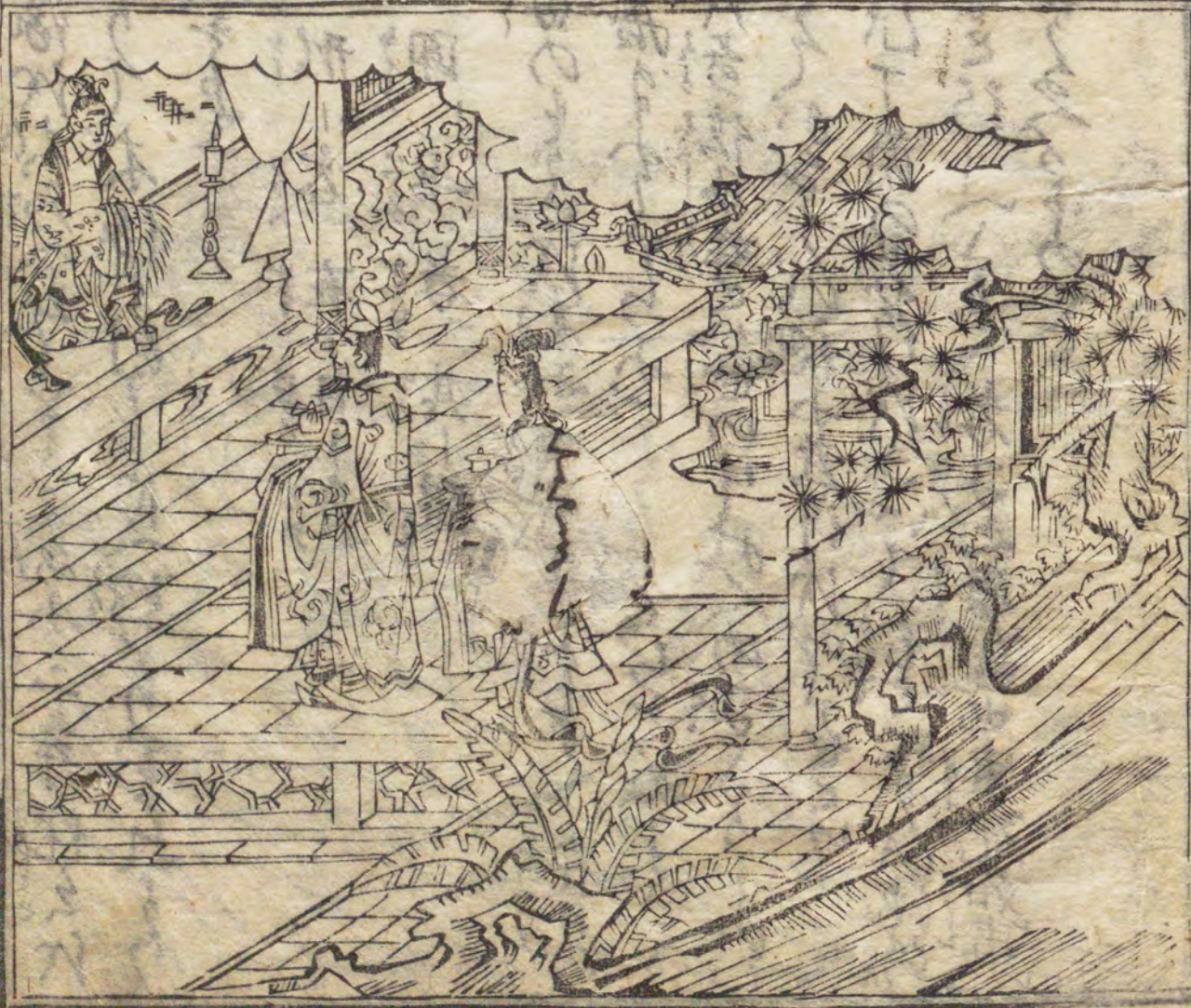
晋の國、くくくくくくくくくくくくくくくく
 人、くくくくくくくくくくくくくくくく
 と、くくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくく
 帝、くくくくくくくくくくくくくくくく
 の、くくくくくくくくくくくくくくくく
 人、くくくくくくくくくくくくくくくく
 子、くくくくくくくくくくくくくくくく
 柏、くくくくくくくくくくくくくくくく



慈母怕聞雷水魂宿夜臺

[illegible]

河門かたの野王やとてふ人の
なり。すなはち母ははの
まもり。かたし母の
まもり。本倭ほんやまとつて
て。お夕ゆふいさる。母の
くふけくまり式しきとて
蘭らんが書か火ひ代しろりすて
本倭ほんやまとのりてこけ
ま。バリのもの。くふれ
う。血ちかぐれまり。二ふた目めと
すき。く。蘭らんが書かのみの
髪かみ。そのりなう。くふ
ふ。ぬけ。く。なる。根ね



本像のとあへて。本像はたゞへり。とて書ふ二年。俺は
 うせきれ。一水風吹。あうりて。本像より。うへへ
 何事をもけ像より。うへへきく。

割^{キザミ} 本^{キヲ} 爲^{ナセリ} 義^{ニジ} 母^{ボヲ} 形^{ケイ} 容^{ヨリス} 在^{ザイ} 一^{イツ} 月^{ゲツ} 一^{イツ} 身^{ミン}
 ヨスル ヨハラ ショ シ ホツ
 奇^キ 言^{ゴン} 法^{ホフ} 子^シ 姪^{テツ} 圃^{キイテ} 早^{ハヤク} 孝^{カウセウ} 其^{フノ} 親^{シン}

孝行刻意母儀を尊むと云。母のまがごとく行ふ。まがごとくと事なく。在目の
 外に形容とせば。生て死するまで一とちがひぬ。
 おうやうと云ふのは言はせ佐子姪といふ世の中此人のおうやうの
 まがごとく行ふことこれぞかきん親小孝行也。ついでと云ふ心へ
 叩早其親小孝せよと云。び丁蘭の孝行記きて。もとわりの神
 づくもやく孝行つくせよと云。孝子之事親也事死如事
 生と云。聖人の法詞をおうまゝ守るべし。

張孝強礼

兄弟あり世間こそ人時
ハナハナあり此母に登一
あり家もぐくくて弟
事とがきなり

偶^{カウ} 值^テ 縁^ニ 林^ニ 兒^ニ
代^カ 烹^ニ 云^イ 瘦^ニ 肥^ニ
人^{ヒト} 皆^{ミナ} 有^{アリ} 兄^{ケイ} 才^{サイ}
強^{チカラ} 氏^ニ 古^コ 今^{イマ} 稀^ヒ

なまぐさくマンド
偶緑林児ふわよとい。有^{ある}時^{とき}
此^これ本のま^まにひらふ
ゆききりお盗^{ぬす}人^{ひと}とてが



えやーの中へて張れおわいする。縁林をみりりのえやーに
 うへーきりうらな事之思ふちごころいふまゝ張れが事之喜ぶ
 代て瘦肥はよく盗人とも張れはうらころして喜ぶ分
 んとよ其時張れよく我老る母は抑よりなり食す食を
 まつた女志むいゆはさ道母も食ひあきて去ぬこ
 あつらん是いつはりおわくもと國代よりしけれ盗人ゆかり
 張れゆりて母も食ひあけて世は所へゆきまり兄の張れは
 張きいて又わくゆきて我ハ張れよりよく肥たり食すと
 ようぞー我はこうして財はさけりとの父は又我をもめ
 子ありやくそくとしてはお死ねわく多しきり。是は盡ふ代とりて
 瘦肥といふ瘦ハ屋敷。肥ハこへるといふまゝ人皆見せありと人
 のこれともあり年のおもいはわくこそかくのよくおりのわい
 とあるまことと思ふ張れ古今掃なりと古と今ととかやんば
 はまれおてたぐひをーといふ事之盗人とははかんど米二粒一泣のこ

け三人ハクヲ成ナリ又ハ
 て後代ノ良バニナリ
 けりてそりなり。又ハ
 樹ニて木あり。それハ
 也。又ハけりてそん
 とハ其美ナレり。又
 本心ナリ。又ハ
 ため。又ハ
 海ニて波あり。又ハ
 群ニて芳あり。又ハ
 春ニて風あり。又ハ
 兄ニて才あり。又ハ
 同ニて居あり。



[illegible]

呉の國は人なり六人の事
を述とる人の名へゆき
きくふ菓子お橘成せり
陸續ひそに先成りて
袖ふまえてよりさぬり
とりたくりまり素速光
成るにばかき人におあ
いぬ事なりとこころひけ
きたつくとせとよやう
あきらむる事ふくみお
ほろ人ふめなりとこ
きり素速きいてたさ
か心す。やれ事は

中ふりたり。わきこの鹿の中へまぎれ入て、鹿の乳飲まりて親
の終ひぬ。まへんを折よ春行の思あわれみ着る声なりと人
ハ。さへ判子ちの皮はふり。よりぬ物くまるとけ鹿に折りひ。まで
お。いころさんにと。去時判子声はわけて我いましとの鹿おわ
も。親のちぬ時人か。こらぬやつ一鹿の乳飲まりおきてとて我
ハ判子とりまのくと。すぎぬわうりきれ物人にどろと。其あ
げ。ころのきれありけすおころは是若心おわらずん山中小や
とむびて。ゆんそく。微おあやうき。いのちぬのうあ事と。た
一寸。親の終ひぬとて。お心天をあらめいて物合
ま。ころぬ。やくま。うめのみ。是春行のせつあゆで

千時貞享三丙寅九月吉月



